

**報告2：福井県文書館における実践を
手がかりに**

島田 芳秀

1 はじめに

福井県文書館（以下、「当館」という）では、若い世代に文書館を利用してもらうため、学校教育との連携による普及啓発活動に取り組んでいる。活動の特色は、連携と普及をkey wordに幼児から高校生まで発達段階に応じた取り組みを行っていることである。当館でのこれまでの取り組みをふりかえり、成果と今後の課題について考えていきたい。

2 高等学校への取り組み

高等学校学習指導要領の日本史Bでは、「2内容(1)歴史の考察」で「歴史を考察する基本的な方法を理解させるとともに、主題を設定して追究する学習、地域社会にかかわる学習を通して、歴史への関心を高め、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。」とある。つまり、地域の歴史資料を活用して地域史を学習し、歴史的思考力を育成することが述べられている。これらをふまえた上での活動として、当館の4つの実践例を紹介する。

(1) 出張授業

平成17年度から毎年1回実施。内容は当館が所蔵している太閤検地帳や寺請証文など教科書に出てくる実際の古文書の原本を使用した授業や郷土の資料を用いた古文書入門の授

業である。実施するうえでは、多忙化している教職員に負担をかけないように留意し、事前に授業プランを提示することや、夏休みや冬休み前など、比較的授業の進度に余裕がある時期の実施を提案している。特に、今年度は学校図書館と連携し、放課後に希望者対象の学校図書講座として実施した。

学校図書館と連携するメリットとしては、放課後に実施するので、生徒や教職員が参加しやすくなることである。さらに、近年、本県の学校図書館は、講師を招いた学校図書講座を積極的に実施しているが、講師の確保が課題となっている。そこで、当館職員が講師となって実施することで、互いにメリットを共有できる。また、これまで出張授業を受け入れてくれた地歴科の授業進度が遅れることも改善される。このように今年度は、学校が出張授業を受入れやすい体制が整った。

(2) 学校巡回展示

学校巡回展示は今年度より実施しており、当館が所蔵している福井県広報写真の中から、その地域に関係するものをパネル化して高等学校の学校祭で展示した。学校祭は地域に公開しているので、生徒や教職員だけでなく、保護者や卒業生、地域の方々に文書館をアピールする機会を得た。使用したパネルボードのうちの1枚に当館の利用案内などを展示し、利用促進につなげた。この試みには大きな反響があり、高等学校の創立50周年記念式典や市の青少年センターなどでの展示依頼につながった。

(3) 文書館研究サポート（高等学校編）

当館が実施している高等学校への出張授業は、ともすると単発的な事業にとどまるという課題があった。この課題解決のため、継続的に活動する文書館研究サポート事業が考え出された。この事業を進めるうえでは、どの分野の研究サポートを行うかが重要である。これまで当館では、総合学習での文書館見学や地歴・国語の授業への資料提供、健康や食

育など保健体育や家庭科に関係のある収蔵資料展示、現代の数学に通じる江戸時代の和算を紹介した文書館だよりの発行を行ってきた。

そこで、これまでまったく取り組めなかった物理や化学など、理科系分野の研究サポートをすることで、全ての分野にわたり文書館が何らかのかかわりを持つことを戦略とした。

理科系分野では、文部科学省や学校が科学技術力の向上と特色ある学校づくりとして力をいれているスーパーサイエンスハイスクール（以下、「SSH」という）がある。

SSHがめざすものは、問題発見・解決能力に富む理科系人材の育成だけでなく、科学技術を正しく理解する文科系人材の育成がある。しかし、現状として理科系人材の育成が進む一方、文科系人材の育成が遅れているのが現状である。当館では、この遅れる文科系人材の育成のサポートを中心に行っていくこととした。

まず、SSH指定校の教職員への聞きとり調査により、SSHで困っていることは、資料の調べ方や検索の方法の指導に苦慮していることであるとわかった。そこで、学校には「文書館・図書館の達人講座」を提案した。この講座は、今年度、併設する県立図書館と連携し夏休みに教職員対象に実施した講座で、当館や図書館での資料を検索する初級編と、論文などを検索する上級編からなる講座である。

次に、SSHで使える当館の資料例として、バイオテクノロジー分野では、農業試験場の過去の研究資料や江戸時代の農書、地域医療の分野では、江戸時代の種痘の資料、化学染料の分野では鯖江藩に唐藍（プルシアンブルー）を売り込んだ資料などを提案した。ただし、SSHでの研究サポートは、学校が求める研究課題との整合性や実施時間数など解決していかなければならない課題も多い。

(4) 高等学校教職員対象講座

この講座は、平成18年度から実施しており、古文書を解読する力をつけるとともに、当館の資料を授業に利用してもらうことをねらいとしている。この講座を実施することで、教職員の当館への理解が大変深まり、地域史学習に地域資料を活用してもらう契機ともなった。

今後の課題としては、当館所蔵の資料を教職員が教材として共有するため当館と教職員による研究会を発足させるなどの取組みが必要となる。

3 小中学校への取り組み

中学校学習指導要領の歴史的分野の「1目標(4)」で、「身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味や関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。」とある。また、新しい小学校学習指導要領の総合的な学習の時間で、「学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと。」とある。これらをふまえた上で、当館の6つの実践例を紹介する。

(1) 文書館新聞の発行

若年層や図書館来館者へ効果的なPRを行い、文書館の認知度アップと親しみやすい施設づくりを目指すため、平成17年度から、収蔵資料や資料の検索方法などを紹介した「文書館新聞」を作成し、夏休み前に県内全中学校に配布している。「文書館新聞」を読んだ中学生が文書館へ夏休みの自由研究の題材のヒントや支援を求め来館するようになり、来館する中学生の数は年々増加している。

(2) 郷土新聞づくりの支援

郷土新聞づくりは、福井県内の中学生の夏

休み自由研究の課題の1つであり、県内で社会科を担当している教職員で構成されている中学校教育研究会社会科部会が母体となってコンクールを実施しており、毎年約3,700点の応募がある。

この郷土新聞作りの支援を平成17年度から行ってきたが、昨年度からは夏休み期間に約1週間の「文書館子どもウィーク」を設け、集中的に郷土新聞作りを支援している。

さらに、今年度から交通の便が悪く来館できない中学生のために郷土新聞出張相談会を若狭図書学習センター（小浜市）で実施した。会場には、これまでまったく郷土新聞を制作したことのない中学生が相談に訪れ、熱心に質問していた。

また、郷土新聞作りコンクールに入賞した作品のうち、当館の資料を使ったものや当館で支援を受けて制作したものを中心に、閲覧室で入賞作品の展示を行っている。

特に今年度は、中学生の郷土新聞作りの参考になるよう、毎月開催している収蔵資料展示で「くらしがわかる新聞広告」（7月）、「新聞漫画世相をわらう」（8月）を開催した。

(3) NIEとの連携

これまで述べてきたように、当館では夏休みに郷土新聞作りの支援を行ってきた。この当館の取り組みを、県内全体に広め、さらに当館の利用促進に結びつけるため、今年度よりNIEと連携した取り組みを開始した。NIEとはNewspaper in Educationの略で新聞界と教育界が連携し教育に新聞を活用しようという活動である。学校教育における新聞の活用については、現行の学習指導要領では、社会科のみの表記であったが、新しい小学校、中学校の学習指導要領では、社会科だけでなく国語科でも表記されており、当館のNIEと連携した郷土新聞づくりは、学校現場でも注目されるものとなった。

具体的な取り組みとして、当館職員と中学校教職員、新聞社が連携した「郷土新聞ポイント講座」を夏休みに開催した。当日は、中

学校教職員が進行をつとめ、当館職員が郷土新聞づくりでの資料の集め方やテーマの決め方、新聞記者が取材の仕方や紙面の構成の仕方などを紹介した。

このNIEと連携したことで、当館の取組みが大きく報道され、当初の目標であった当館の取組みを県内全体に広めることは、達成されたと言える。

(4) 文書館研究サポート(中学校編)

平成19年度に、当館へのフレンドリーバス(無料バス)の沿線にある福井市の中学校社会科選択クラスと連携して、「一枚の写真から昭和時代を探ってみよう」を実施した。これは、中学生の保護者または祖父母の所有する昭和時代の写真をもとに、昭和時代の文化、風俗、人物、時代背景を調べ、研究成果を当館でパネル展示するものである。

この取り組みの狙いは、中学生が昭和の時代を調べることで、歴史に興味・関心をもつことや、研究成果を展示することで、保護者などに文書館の活動をアピールし、文書館への来館や利用促進を図ることである。

さらに、当館では、中学生の研究成果を深めるため所蔵する広報写真をもとに「ちょっと昔の福井県写真展」を開催した。子どもの研究成果を見るために来館した保護者からは、「昭和の懐かしい写真を見ながら子どもとの会話がはずみ、家庭が温かい雰囲気になった」との感想をいただいた。今後は、この実践を福井市以外の県内の中学校といかに連携して行っていくかが課題である。

(5) 文書館・図書館まると探検隊

併設する県立図書館と連携し、小中学生を対象に、普段見ることができない図書館書庫や当館が所蔵する貴重な資料を紹介した。そして、探検でわかったことや感想をまとめたオリジナル新聞を制作した。終了後のアンケートでは「とても楽しかった」61%、「楽しかった」39%と満足度の高いものであった。来年度も継続した実施が必要である。

(6) 小中学校教職員対象講座

平成20年度より、当館が福井市の中学校教職員対象の研修講座を福井市教育委員会に働きかけて実施している。講座の目的は、地域の古文書に対する興味・関心を高め、地域資料を活用した授業を行ってもらうことである。特に、今年度は県立図書館と連携し、学校での授業づくりのヒントになる図書館での資料の探し方を紹介した「授業に役立つ図書館の達人講座」と、授業で取り上げられる歴史資料などを紹介する「授業に役立つ古文書入門講座」を実施した。終了後のアンケートでは、「たいへん有意義だった」が46%、「有意義だった」が50%との結果を得た。今後とも、このような講座を設け、文書館の学校教育への利用促進につなげていく必要がある。

4 保育園(幼稚園)への取り組み

当館は、県立図書館と併設していることもあり、保育園(幼稚園)の園児が遠足で来館することが多い。今年度は、34名の園児が来館したが、園児たちに文書館の役割や利用についての理解は困難である。そこで、10年前の恐竜エキスポふくい2000で活躍し、その後文書館に移管されたフクリュウくんの着ぐるみで文書館を紹介している。古い文書を守るフクリュウくんが文書館に住んでいるという設定で、当館オリジナルの歌と劇で文書館を紹介し、あわせて、当館が所蔵する現物の古文書や捕獲した害虫も紹介した。園児たちは、文字は読めなくても虫食い状態の古文書や害虫に興味津々であった。

5 まとめ

当館と学校教育との連携について、実践例をもとに述べてきた。これらの取り組みを今後継続的に進めていくためには4つの大切なことがあると考える。1つ目は「教育現場のニーズをつかむ」ことである。教職員の多忙化にならない配慮を行いながら、互いにメリットのある取り組みを行う必要がある。2つ目は「図書館、博物館など他の機関との連

携」である。連携することで、学校に提供できる素材の充実がはかれる。3つ目は「積極的広報活動」である。学校においても文書館の認知度はまだまだ低く、あらゆる機会をとらえて文書館を宣伝、広報したい。4つ目は「ネットワークづくり」である。教職員が当館の資料を学校教材として共有するための研究会の立ち上げなどが必要と考える。

先に報告のあった栃木県立文書館の先進的な取り組みを参考に、今後も教育機関との連携を進めていきたい。